

こんにちは！コーネル大学でケミカルバイオロジーを研究している鄭 麗嘉です。月日の流れは早いもので、ついに PhD 6 年目を迎えました。船井同期の 2016 年度生が続々と卒業していく中、こちらは卒業まであと 1 年弱かかりそうです。正直最近は何となく伸びしろを伸ばしきりつつあるようで、先生から批判的アドバイスを受けることもほぼなくなりだいぶ居心地が良くなってしまったので、もう卒業する頃合いなんだろうなあとは思っています。とはいえアカデミアを目指していることもあって、現在進行中の研究たちをできるだけ論文にしたいので、来年の夏までに 2 本まとめてから卒業することを目指して頑張っています。

1. 研究

ニューヨーク大学との共同研究で進めていたプロジェクトが出版され、2 本目の第一著者論文となりました(<https://pubs.acs.org/doi/10.1021/acscentsci.1c00444>)。また、同時進行で進めていたレビューも出版されました(<https://authors.elsevier.com/c/1dSRX4sz6MBAtD>)。2019 年に初めて論文を書いた時は先生の華麗な全文添削を受け、私の下書きは面影もなくなってしまったのですが、今回は私の文章がほぼ丸々残された部分もちょくちょくあって、自分の成長を感じられました。ただ、実験を進めながら論文を書くことがかなり難しく、精神的にも負担のかかる日々だったので、もっとうまく実験と論文執筆の両立ができるように経験を重ねていきたいです。

自分は下手な鉄砲数撃ちや当たる方式なので、メインテーマを進めながらその過程で気になったことをどんどん実験していくのが好きです。しかし、卒業に向けて忙しくなっていく中、多々の実験で自分のスケジュールを埋めることに満足してしまっている状態を反省し、最近では本当に重要な実験とそうでない実験を区別するよう意識しはじめました。でもその区別にも才能が必要なので、今までの経験をもとに養われた(と信じている)嗅覚を当てに進めています。ただそうして実験時間を減らしても、上級生の宿命なのか後輩の指導やラボメイトの手伝いに結局時間を吸われてしまい、なかなか思うように物事が進まない状況です。実験・論文執筆・指導の三柱の並立は研究者として欠かせない要素だと思うので、それらを自律的・効率的に進めていけるようになりたいです。

2. 卒業後の進路

PhD 取得後はアメリカで数年間ポスドクをする予定なので、ポスドク先決定に向けて動き始めました。現在の研究内容はタンパク工学と有機化学を組み合わせることで細胞内で脂質を修飾し、その脂質修飾が細胞機能に与える影響を調べることです。その一環で酵素の directed evolution (変異→選別という自然界での進化を模倣することで、特定の機能を持つ変異酵素を作ること)

にも手を出しており、その研究の成果が自分の PhD 研究において最もわくわくするものとなりました。タンパク工学は生物学・有機化学との組み合わせ次第で無限の可能性があり、個人的にとっても夢のある分野だと思うので、ポスドク先ではこの分野をもっと専門的に究めていきたいと考えています。

タンパク工学関連で興味のあるラボが2つ、ウェット系とドライ系でそれぞれありました。自分にとって真新しいドライ系のラボにも心惹かれたのですが、地理的な兼ね合いなどもあり、スタンフォード大学にある前者のラボに応募しました。9月上旬に現地で面接を受ける予定で、このままトントン拍子に決まってくると嬉しいです。ただ、スタンフォードで PhD をしていた同期の谷川くんを始め船井奨学生の知り合いが次々とボストンへ移っているのが、少し寂しいです。バークレーに5年間住んでいた姉から「異常現象と山火事のせいで最近の西海岸は魅力がない」と言われたのですが、それが原因だったりするのでしょうか？兎にも角にも住んでみるまでわからないので、とりあえず西海岸への移住を目指して邁進する所存です。

3. 所感

今年28歳を迎え、自分より若い人の活躍を見ることが多くなりました。若さというのはそれだけで強みで、「若い才能に対する焦りのような感情」の存在自体は推理小説などでもよく見るテーマですが、この歳になって初めてそれを実感し、なるほどこういう感情なのかといった気持ちです。とはいえあまりネガティブな感情ではなく、自分は自分の人生しか生きられないのだから、この人生を幸せにしていきたいという思いを新たにしています。日記扱いで恐縮ですが、このまま歳を重ねていけるよう、将来の自分への備忘録として記させていただきます。

以上です！船井財団のご支援のおかげで、順調な PhD 生活を送れていると思います。いつも寛大なご支援を本当にありがとうございます。冬の報告書までに様々な面で進捗があることを祈りつつ、今回の報告書ではここまでとさせていただきます。